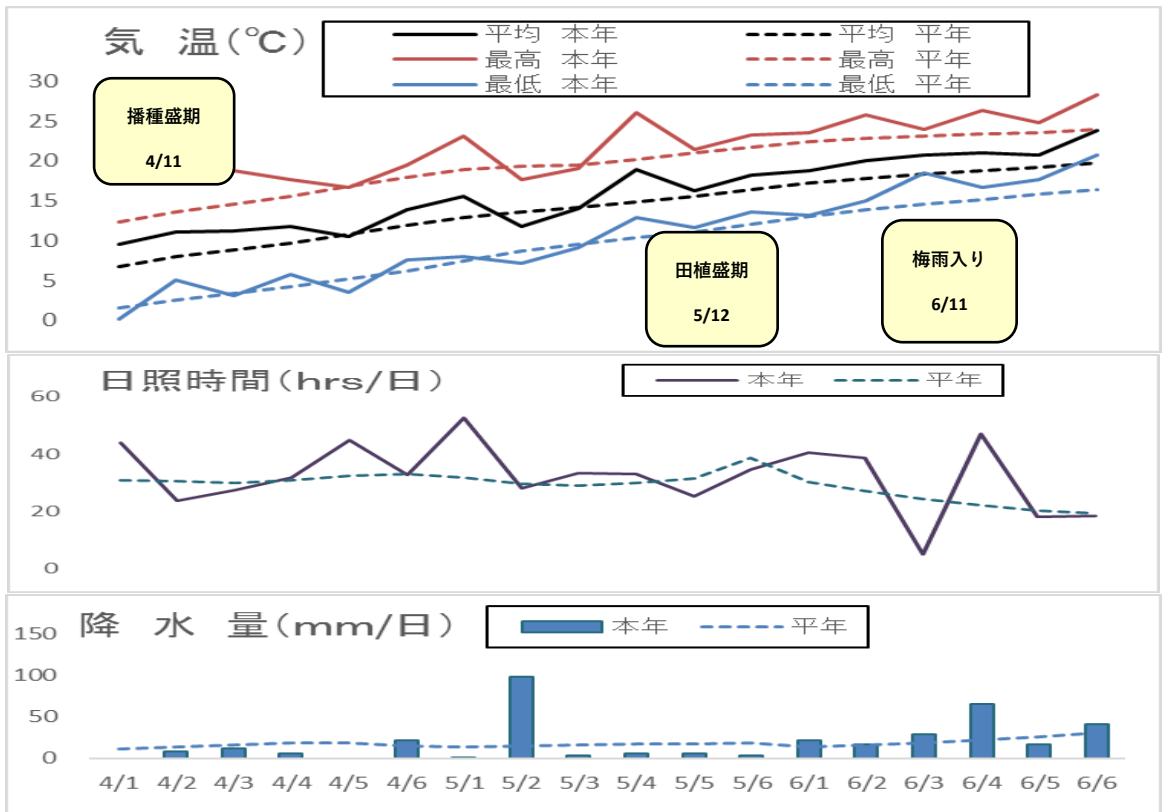


～生育ステージはやや早く まもなく幼穂形成期に入る見込み～

～有効茎を確保したほ場では 早めに追肥・病害虫防除等の準備を～

1 令和5年の気象(古川アメダス)



◆6/29 発表 東北地方の1か月予報(7/1～7/30 までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・ 平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・ 向こう1か月の気温は、高い確率50%，平年並みの確率40%，低い確率10%。
- ・ 降水量は、多い確率40%，平年並み若しくは少ない確率30%。
- ・ 日照時間は、多い若しくは少ない確率30%，平年並みの確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/01～07/30	10 (低い) 40 (平年並) 50 (高い)
		1週目 07/01～07/07	10 (低い) 30 (平年並) 60 (高い)
		2週目 07/08～07/14	10 (低い) 30 (平年並) 60 (高い)
		3～4週目 07/15～07/28	30 (低い) 30 (平年並) 40 (高い)
降水量	東北地方	向こう1か月 07/01～07/30	30 (低い) 30 (平年並) 40 (高い)
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/01～07/30	30 (低い) 40 (平年並) 30 (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況（6月30日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査〕

(1) 作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（古川農業試験場）

- ・草丈は53.2cmで平年比110%，茎数は707本/m²で平年比111%である。
- ・葉色（GM値）は41.8で，概ね平年並み。
- ・葉数は9.9枚で平年より0.5枚多く，生育ステージはやや進んでいる。

移植日	草 丈		茎 数		葉 色		葉 数	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	平年差 (枚)
5月10日	53.2	110	707	111	41.8	▲ 0.2	9.9	0.5

(2) 生育調査ほ 県内品種別（農業改良普及センター）

- ・草丈は51～54cm程度で，平年比105～115%である。
- ・茎数は515～541本/m²，平年比87～106%で，概ね平年並みである。
- ・葉色（GM値）は39～44程度で，やや低下してきている。

- 「作況試験」や「生育調査ほ」の調査結果から推察すると，茎数が平年より少ないほ場も見られるが，概ね有効茎数は確保されたと思われる。

品種名	草 丈		茎 数		葉 色	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	54.1	106	515	96	41.3	▲ 1.1
ササニシキ	50.8	105	541	87	39.2	▲ 1.7
つや姫	53	115	535	106	43.8	▲ 1.9

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・まもなく幼穂形成期（古川農業試験場「5月10日移植ひとめぼれ」の平年値は7月8日）を迎える。中干し終了後，出穂期までは間断かんがいまたは飽水管理を行い，根の健全化を図る。
- ・出穂期までの間に低温が続く場合は，深水管理を行い，幼穂を保護する。

(2) 肥培管理

- ・茎数が不足気味のほ場では，穂数不足が懸念される。幼穂形成期の追肥が有効な品種は，茎数や葉色の推移を確認して幼穂形成期の追肥を行い，穂数の確保を図る。
- ・今年は葉色の低下が平年より早く，早めに肥料が切れる可能性があるため，適期に追肥を実施する。

- ◆品種ごとの追肥窒素量(kg/10a)は，以下を目安にする。

品種名	ひとめぼれ	ササニシキ	だて正夢	金のいぶき	つや姫・まなむすめ
幼穂形成期	1	-	-	1	2
減数分裂期	1	1～1.5	2	1	-

◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正籾数の確保を図る。

◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値（SPAD502値）が30以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し、減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持する。

(3) 病虫害防除（宮城県病虫害防除所 発生予報第5号より）

① いもち病

- ・防除所の予報では葉いもちの発生時期は「平年並みの7月第1半旬」で、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・防除所では、葉いもちの感染好適条件の出現状況について、下記のようにHPに掲載している【いもち病は平均気温が19～25℃で曇りや雨の日が多いと発生しやすくなる。●が感染好適条件】。今年、6月28日以降、感染好適条件が県内のほぼ全域で出現している。
- ・防除所による6月中旬の調査結果によれば、県北部のほ場で平年より早く発病が確認されている。また、残苗での発病も確認されている。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/24	—	—	—	○	△	△	○	○	—	△	○	○	○	●	○	○	—	○
6/25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/26	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/28	○	●	●	—	●	●	●	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	—
6/29	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	●	—	—	—	—	—
7/1	●	●	●	●	—	●	●	—	●	—	—	●	●	—	—	●	—	—
7/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●

- ・箱施用剤を施用した場合は、7月上旬～中旬以降に薬効が切れる。
- ・予防粒剤による「穂いもち」防除は、出穂前20～10日前を目安とする。

② 斑点米カメムシ対策

- ・防除所が水田周辺の草地で行った調査によれば、県北部の出穂したイネ科植物のある草地では、「アカスジカスミカメ」の成虫が多く確認されている。
- ・発生源となる畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、7月中旬を目安に草刈りを実施する。
- ・草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、出穂の10日前までに終える。